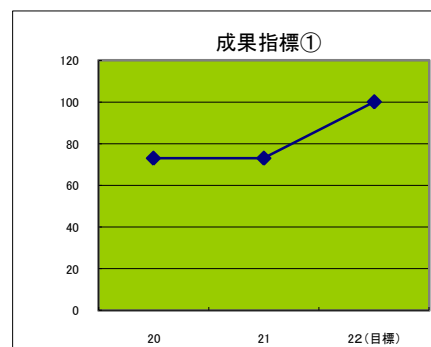
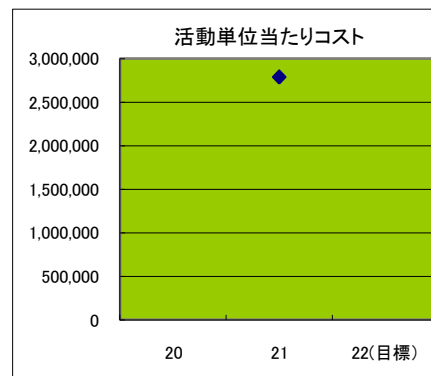


事務事業名		文化財発掘調査事業（峯ヶ塚古墳）		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		款	10	教育費
	施策(節)	5	市民文化・芸術		項	5	社会教育費
	施策の方向	(1)	歴史的資源を活かしたまちづくりの推進		目	4	文化財保存事業費
関連する計画等				事業	60	史跡峯ヶ塚古墳保存整備	作成部署 教育委員会事務局生涯学習室社会教育課 (世界遺産登録準備室)
事業の目的				連絡先			
事業の内容				対象（誰を・何を） 峯ヶ塚古墳 意図（どういう状態にしたいのか） 古墳を発掘調査し、市民をはじめ多くの方々に古墳が具体的に体感できると共に、歴史学習の場となるように復元整備する。 昭和62年度より継続してきた古墳の確認調査や整備計画案について、一定のまとめと整備・活用の方角性を整理し、大阪府及び文化庁と協議を重ね具体的に復元整備事業を推進する。復元整備に必要な調査を実施した上で、整備検討会での審議、基本設計や実施設計の策定を経て、早い時期に峰塚公園と一体となった復元整備を実施する。平成21年度は大刀の再保存処理を行った。			
根拠法令等							
事業開始時期				☒ 昭和 62 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 市制施行（昭和34年）以前より行っている			
事業開始時からの状況変化				発掘調査により古墳本来の範囲が広くなり、復元整備及び史跡指定拡大が必要となる。			
市民や議会の要望				早期の古墳全体の復元整備と、歴史資料館の併設などが望まれている。			
実施手法				☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他（ ）			
委託先				委託内容			
☐ 市外郭団体委託 名称（ ） ☐ 民間委託 ☐ その他				発掘調査委託			

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		3,435	1,901	3,030
人件費【2】 (千円)		6,135	3,675	6,525
職員数	正規職員	0.65 人	0.49 人	0.75 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.70 人	0.00 人	0.50 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		9,570	5,576	9,555
財源内訳	国費 (千円)	1,597	899	1,392
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	7,973	4,677	8,163
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 出土保存処理点数	点数		2	
② 調査件数	件数	1		1
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		円	2,788,000 円	円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		80 円	47 円	80 円



成果指標	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	①	調査進捗率	%	峯ヶ塚古墳調査の到達度を見る。	目標	100	100	達成率(%)	100	
					実績	73	73	73.0%		
	②	(式)			目標			達成率(%)		
					実績					

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	古墳以外の都市公園の部分が整備され、オープンするため、早期に古墳部分が整備されることが望ましい。
	○	○						○			

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	古市古墳群にあって、古墳に立ち入ることができる数少ない古墳の一つであり、復元整備し市民に開放することで、公園に付加価値を高めることができる。一体が既に公園として供用が開始されており、早期に古墳復元整備の必要性がある。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☒	☐	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	調査に限って言えば遅れはあるが、着実に進んでいる。
	受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	古墳を復元整備することで、羽曳野市が誇る歴史遺産を活用することとなり、大いにまちづくりの推進に貢献できる。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	発掘調査の成果については、現地での説明会をはじめ、整理後には報告書を刊行したり、遺物の展示(ギャラリー)などで公開・周知に努めている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☐	☒	☐	公園オープンを期に改めて事業推進のスピードアップを図る。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	都市公園である峰塚公園が完成し、共用されているため、公園の中核となる公園の復元整備は不可欠であり、さらなる事業の拡充や推進を図る必要がある。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行 革 本 部 評 価	整備委員会での十分な検討をはじめ、市民の意見の取り入れ、大阪府や文化庁との協議を積極的にすすめ、早期の復元整備をめざす。	
	総合評価 ☒ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☒ 方法改善 ☒ 民営化・民間委託 ☒ 縮小 ☒ 廃止・休止 ☒ 完了	
	評価理由・意見	